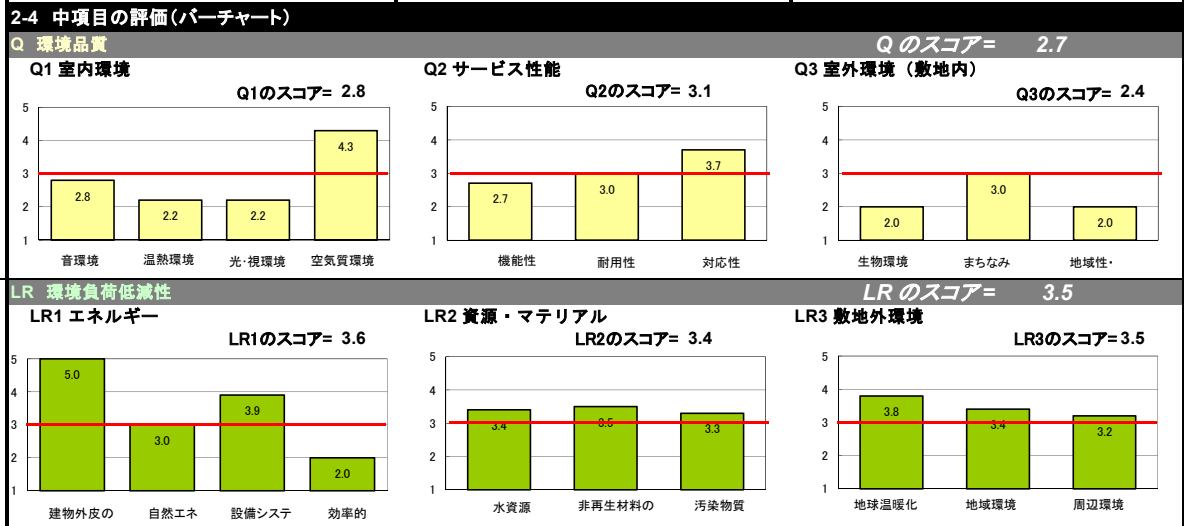
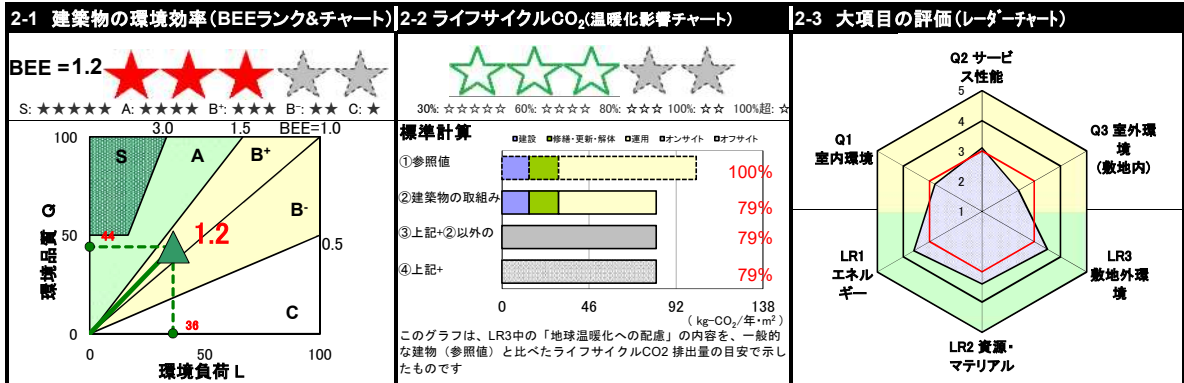


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 明和 東端工場	階数	地上2階
建設地	愛知県安城市東端町新切5番1 他12筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,000時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年10月23日
敷地面積	3,300 m ²	作成者	渡邊真一
建築面積	2,103 m ²	確認日	2019年10月23日
延床面積	3,164 m ²	確認者	渡邊真一



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>52.0%</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0%</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	52.0%	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	52.0%				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
なし

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

重点項目スコアシート

(仮称)株式会社 明和 東端工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:52%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社 明和 東端工場

計画上の配慮事項	
総合	特になし
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用、ホルムアルデヒド以外のVOCへも配慮、全館禁煙とするなど空気質環境に十分配慮している。
Q2 サービス性能	壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。 内装材は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。 補修必要間隔の長い配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	泡沫水栓や省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。 また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を79%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。
その他	